

新聞に親しみをもち、主体的・対話的に学びを深める子どもの育成 ～新聞記事を一つの起点とした教育活動の充実



(NIE 実践・研究) ～

新潟市立松浜小学校

1 NIE 実践のねらい

今年度、NIE 実践・研究 2 年次の取組として、「新聞に親しみをもち、主体的・対話的に学びを深める子どもの育成～新聞記事を一つの起点とした教育活動の充実（NIE 実践・研究）～」を研究主題として設定し、各教科・領域において実践・研究に取り組むこととした。

1 年目の取組の成果として以下の二つが挙げられる。

一つ目は、新聞とかかわることが少なかった子どもに対して、NIE タイムの設定、NIE コーナーの設置、新聞コーナー、そして放送委員会による新聞記事紹介放送の実施等の教育活動を展開したことで、「新聞に触れる」「新聞に目を向け、新聞から情報を収集する」素地を育むことができた。実践に取り組む前は、「新聞を読むことが楽しい」子どもの割合が 7.9% だったが、年度末には 77.8% に向上し、子どもたちの意識も変わってきた。

二つ目は、計画的な校内職員研修を実施したことで、職員間で NIE 実践・研究の基礎的な知識について共通理解を図り、1 年次の NIE 実践・研究に取り組むことができた。また、NIE の授業を構想する際に、国語科的知見、社会科的知見、道徳的知見等、それぞれの教職員が自分の専門性を発揮しながら授業づくりを進めることができ、教職員の多様な学びの場となった。

一方、研究主題である「子どもの主体的・対話的な学び」について、その姿を引き出すための新聞の活用の仕方を検討していく必要があった。職員全体で、新聞を通して子どもに何を、どのように学ばせるのか、また新聞を活用することの目的や意義を再度検討し、より NIE 実践・研究の本質に迫っていききたい。

3 本年度実践の概要

(1) NIE タイム

昨年度から継続して、新聞に触れる機会を意図的に増やすために毎週木曜日の朝学習の時間を利用し、全校で NIE タイムに取り組んだ。

学 年	NIE タイムの活動内容
1 学年	・かたかな探し ・すてきな言葉探し ・今日の天気 ・テレビ欄を見てみよう ・絵や写真で記事の確認
2 学年	・新聞には何がのっているかな ・ちがいがし（新潟日報にのっている） ・どの新聞写真にひかれるか（好きか）→その理由を書く ・新聞パズル ・季節の写真探し

3 学年	・ 新聞に親しむ ・ 新聞パズル ・ こそあど言葉を探す →「これ」や「それ」がさす内容を確認する ・ 子どもが興味関心をもつ新聞記事を読み聞かせて、感想を書かせる。
4 学年	・ 一面記事の中から気に入った記事を選び、よいと感じた文章に線を引く。 (読み→思いや考えをもつ) ・ 教師が選んだ記事を読み、感想を書く
5 学年	・ 新聞記事感想文 ① 教師が読み聞かせ、感想や考えを書く。 ② 子どもが自分で読み、感想や考えを書く。
6 学年	③ 複数の記事から自分の興味を持った記事について読み、感想を書く。 ④ 同じ記事を読んで書いた友達の感想と自分の感想を比較して、自分の考えを強化修正する。

(2) NIE コーナーの設置

NIE タイムで取り組んだ成果を廊下に掲示し、保護者等への NIE の取組の発信と各クラスの NIE タイムの活動内容を紹介し合う場を設置した。

学年の実態に応じて、担任が選ぶ記事が違っていたため、NIE コーナーを見ることで、様々な記事に触れたり、他の学年がどのような感想を書くのかを参考にしたりすることができていた。教師側も他の学年の記事の見方などを学ぶことができていた。



(3) 新聞コーナーの設置

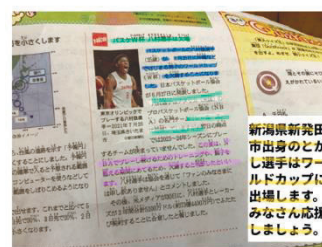
今年度は、子ども新聞 3 紙（朝日・毎日・読売）と普通紙 5 紙（日報・日報 OTONA+・読売・日経・産経）を常設し、いつでも新聞を読めるようにした。休み時間になると、新聞コーナーへ来て子ども新聞を読む子が見られた。家で新聞を取っていない子どもにとって、興味のある記事を見ることができる機会となっていた。



(4) 委員会活動との連携

放送委員会に給食時のお昼の放送の番組に「新聞記事紹介コーナー」を計画してもらい子どもの目線で興味関心のある記事を毎日紹介してもらった。20分休みや委員会の時間を使って記事を選び、その記事から何を伝えたいかを担当の子どもが準備し、放送に臨んだ。

7月 5日 新潟日報新聞の記事 (7月2日放送)



(5) 校内職員研修と NIE 授業実践

6月にNIEアドバイザーの中村康様を招きNIEのポイントを指導していただいた。昨年度の実践を基に研究の価値付けと今年度の方角性を職員全体で共通理解をすることができた。この研修を基に各学級においてNIE実践を進めた。



【各学級における NIE 実践例】

学年	教科等	単元名等	新聞活用のねらい
1 年	図工	しんぶんて なかよし おべんとうを つくろう	学習意欲の喚起 作品制作の知識獲得
2 年	学級活動	「なりたい自分」になるために	学習意欲の喚起 将来像の参考資料
3 年	道徳	なんだろう なんだろう 「うそ」って、なんだろう	学習意欲の喚起 問題提起
4 年	道徳	さまざまな思いやり	ゆさぶり・問題提起 他者理解・価値理解
5 年	道徳	郷土を大切に	学習意欲の喚起 問題提起・価値理解
	道徳	楽しみ方 人それぞれ スポーツの魅力！	問題提起 思考の活性化 他者理解・価値理解
6 年 公開授業	自立活動	新聞で遊ぼう	学習意欲の喚起
特別支援	社会	ゆるキャラから知ろう 日本各地の推し♡	学習意欲の喚起 情報収集
	学級活動	セミの成長のしかたを知ろう	学習意欲の喚起 情報収集
	自立活動	自分のいかりと上手につきあうには	学習意欲の喚起
	学級活動	ボッチャであそぼう	学習意欲の喚起

4 実践例

(1) 第6年2組 特別の教科 道徳 授業者：教諭 高野 伸夫

①単元名、領域

「楽しみ方、人それぞれ。スポーツの魅力！」 B-11：相互理解・寛容

②使用した新聞記事

『きらきらキラリ スポーツ勝ちを求めたい』

新潟日報 2012 年 10 月 6 日

『きらきらキラリ スポーツの楽しさを知る』

新潟日報 2023 年 9 月 29 日

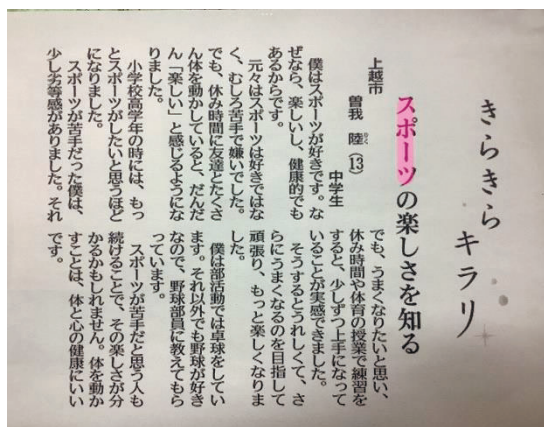
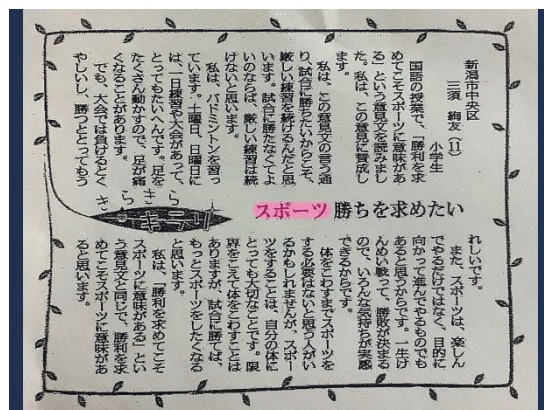
③ねらい

二つの新聞記事を読むことで、自分がスポーツにどのような態度で取り組んでいるのかを見つめ直し、それをお互いに伝え合うことで、人それぞれで違いがあることに気付き、今後の日常生活でスポーツをする際には、お互いの違いを認め合おうとする態度を育てる。

④主な手立て

ア 二つの記事を読んで、自分のスポーツに取り組む際の態度を見つめ直す【教材の比較】と【自己理解】

子どもは、日常的にスポーツに取り組む際に「勝つこと」を目指して取り組んでいた。そこで、最初に「スポーツ勝ちを求めたい」(新潟日報・2012年10月6日)を提示した。記事の内容に納得し、「勝つためにスポーツに取り組んでいる」という主張に賛同する子どもがいる一方で、そこに違和感をもつ子どもがいた。そこで、次に「スポーツの楽しさを知る」(新潟日報・2023年9月29日)を提示した。今度は「うまくなるためや体と心の健康のために取り組む」という内容で、勝敗に関しては一切触れていない。「勝利のため」「勝利以外の目的」という異なるスポーツへの二つの記事を読むことで、様々な視点から自分のスポーツに取り組む際の目的を見つめ直していた。



イ 自分の立場を明確にした上で、お互いのスポーツへの態度について話し合う【他者理解】

二つの新聞記事を読む前に、自分は「勝つため」にスポーツに取り組むのか、「勝つこと以外の目的」で取り組むのかを黒板の数直線にネームプレートで立場を明確にさせた。その後、二つの記事を比較しながら読み、改めて数直線上で立場を示させることで、様々な視点からスポーツの目的について考え、自分自身を深く見つめ直していた。

自分の態度を決めて、その理由を考えた後は、ペアでお互いの考えを伝え、全体で交流した。全体交流の中で、勝ちに強くこだわっている子どもの意見、勝ちにこだわらず勝ち以外の価値観を見出している子どもの意見、勝ちと他の意見を両方大切にしている意見、この三種類の考え方を紹介して、お互いの違いに気付けるようにした。

⑤実際の子どもの様子

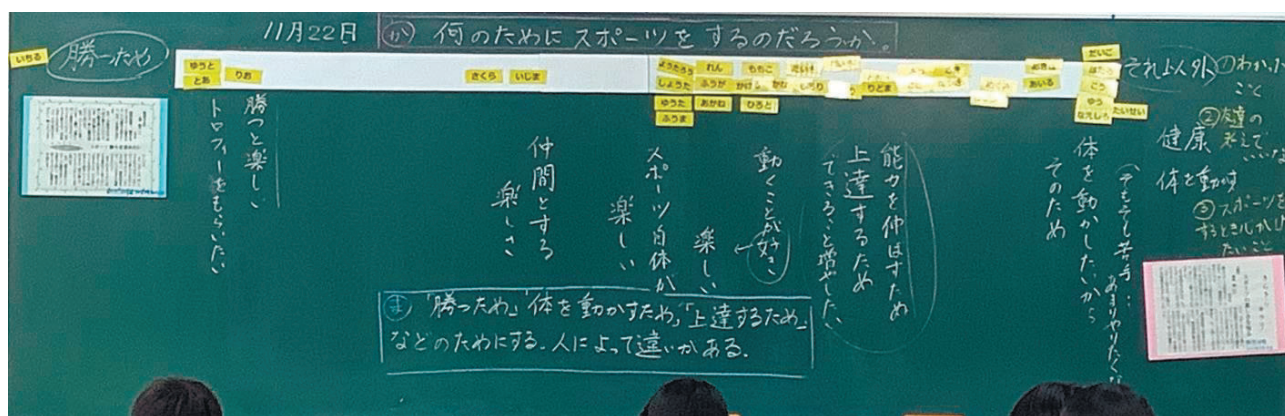
〈授業の様子〉

- ・ 新聞記事を提示する前の立場と 2 枚の記事を比較しながら読んだ後の立場に変容が見られた。読みやすい同年代の「勝つために取り組む」と「健康のためやうまくなるため」という異なった立場の意見を読むことで、双方の立場について知ることができ、自分ごととしてスポーツに取り組む際の目的について見つめ直している様子が見られた。
- ・ 各自で立場を明確にし、理由を持った後にペアでの交流と全体交流を行った。友達と交流する中で、「とにかく勝ちにこだわりたい」という意見も「本当はスポーツが苦手だから」という意見も温かい拍手の中で安心して意見を言うことができていた。子どもたちが本音で語ることで、様々な立場からの話し合いが行われた。

〈子どもの振り返りより〉

- ・ 人それぞれスポーツをする目的があるということが分かりました。それぞれの意見を聞いて面白かったです。今後スポーツをするときには、新聞記事や友達の意見を考えて、目標を立ててそれに向かって頑張りたいです。
 - ・ 私は体育が苦手で仕方なくやっていたけど、友達の意見を聞いて自分もそうかもと揺さぶられました。『自分の能力を上げるため』や『できることを増やすため』なども今後大切にしていきたいです。
- 多くの子が新聞記事や全体交流を通して、「スポーツに取り組む目的は人それぞれ違い、それぞれに理由がある」ことを知り、自分がスポーツに取り組む際に大事にしていきたい目的について見つめ直した。





5 2年間の成果

- 2年間を通して NIE の実践研究に取り組むことで、子どもたちが新聞に親しみ、記事から学ぶ機会が増えた。子どもアンケートでは、「NIE の取り組みを通して新聞を読むといろいろなことを知ることができる」という項目に 83.7% の子が肯定的な回答をした。
- 各学年で協力して教材研究を行い、NIE の実践を積み重ねることで、発達段階ごとに新聞活用の活用方法が見えてきた。

低学年 特別支援	新聞に親しむ	・ 図工の見本や工作 ・ ひらがな探し など
中学年	一つの記事から考える	・ 一つの記事を工夫して提示し、じっくり読むことで、知識を獲得したり、新たな考え方を知ったりして、自分の考えを深める。
高学年	複数の記事から考える	・ 複数の記事を比較したり関連付けたりして読むことで、複数の視点から考えを深める。

- 新聞記事の提示方法を検討し、児童の実態に合う提示の工夫を行った。
例：
 - ・ 興味・関心を高めるために、写真のみを提示する。
 - ・ 記事の内容を予想するために、見出しのみを提示する。
 - ・ 子どもの思考を揺さぶるために、本文を分割して提示する。
 - ・ 注目してほしいところに目を向けさせるために、打ち直したり、サイドラインを引いたりして提示する。

【おわりに】

2年間の実践・研究を通し、職員を含めて新聞の持つ可能性を改めて知ることができた。当校の子どもたちは、学びに向かう力が低く、文章を読むことも得意ではない。しかし、新聞記事を一つの起点として、協働的に学びを進めることで、興味を持って学んでいる様子が見られた。今後も子どもたちの笑顔につながる授業をできるように研修を進めていく。

(加藤 雅晃)

担当 NIE アドバイザー及び担当新聞通信社からの一言

1 担当 NIE アドバイザー

新潟市立両川小学校 教諭 中村 康



楽しいドッジボールのはずが、勝ちたいと思う子と楽しみたいだけと思う子の間でトラブルが起き、残念な結果になることがあります。原因は、自分の言い分を相手にわからせようとする方法にあります。相手を変えようとする方法では、人間関係の問題は解決できません。松浜小では、普段の人間関係の問題を、2つの新聞記事を比べて読み合うことで改善できることを本提案しました。

スポーツを楽しみたいと思う子は、記事「勝利を求めてこそスポーツに意味がある」を読むことで、「勝ちたいだけではない」という相手に対する自らの情報不足気付き、勝つことを目標に取り組む価値を新たな情報として得ることで自分の考えを変えました。一方、勝利を求めてこそスポーツには意味があると思う子は、記事「スポーツの楽しさを知る」を読むことで、「楽しみたいだけではない」という相手に対する自らの情報不足に気付き、スポーツを楽しむことの価値を新たな情報として得ることで自分の考えを変えました。

授業者による共感的な対話を土台にして、子どもたちは、自分に通じる記事と相手に通じる記事の2つを比べて読み合うことで、気付けなかった相手の思いや考えに気付くことができました。だからこそ、自ら自分を変えることができたのだと思います。これからも、新聞記事の活用を通して、よりよい人間関係、よりよい社会を築いてほしいと願います。

2 担当新聞・通信社

読売新聞新潟支局長 中島 達雄



新潟市立松浜小での研究発表会を担当しました。高野伸夫先生による道徳の授業「楽しみ方、人それぞれ。スポーツの魅力！」は、複数の新聞記事を使ってスポーツの目的について考え、議論する意義深い内容でした。試合に勝ちたいと考える人もいれば、勝ち負けより楽しむことを優先したい人もいます。運動が得意な人がいる一方、苦手な人もいます。児童たちは、人によって考え方が違うことや、その違いを尊重するのが大事だということを、新聞記事をきっかけにして学んだと思います。

全体会・協議会でも紹介しましたが、研究発表会のあった11月22日の読売新聞朝刊に「スポーツで育む」という記事が掲載されていました。記事の中で、中学校の部活動改革に取り組む長岡市のアドバイザーが「優先すべきは子どもたちの活動の場の保証」と指摘したうえで、「大人たちの勝たせたい欲求やエゴ、責任の押し付け合い」の排除が重要だと訴えています。どうやら大人も学ぶ必要があるようです。次回はこの記事の活用もご検討ください。